



# 月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (222) 7207 番

94.3.4 No.3954

# 本格的経済戦争 に入っただ日米対立

日米対立が、今や抜き差しならない時代に突入しています。

二月一日開催された、日米首脳会談では、「日米新経済協議」が物別れに終わったことを発端に、ついに経済関係の決定的亀裂を生み出しています。

この日米首脳会談の決裂直後から、クリントン政権は、移動電話の市場開放問題から、米通商法スパー三〇一条(不公正な貿易慣行への制裁)の復活を示唆、等々と、矢継ぎ早な対日制裁の動きを加速しています。

ことここに至り、日米関係は、今までの机上では握手をしながら、机の下では蹴りあうというプロローグから、ノーガードで凄まじく打ち合うという、本格的経済戦争の段階に入ったと言えます。

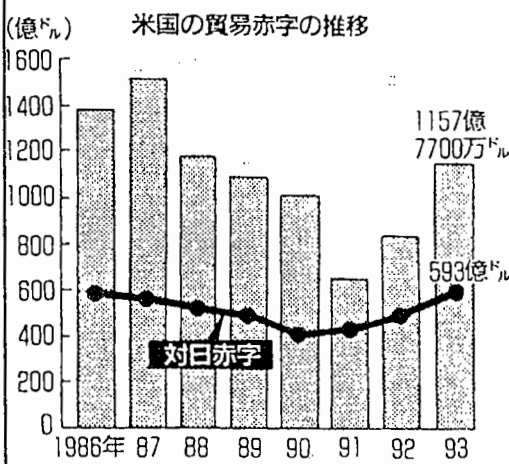
## 冷戦体制の崩壊—対ソ戦略から

### 対日戦略へと移行した米帝!

アメリカの世界戦略の根幹は、冷戦体制の崩壊によって、対ソ戦略から、対日戦略へと転換してきます。

クリントン政権は、「経済安全保障戦略」という政策の下、経済で奪われたものを軍事で取り戻す戦略へと具体的に踏み出しています。経済が軍事の論理で動きだしているだけでなく、軍事そのものが動きだしています。「アメリカはアジアで三つの戦争を戦った。われわれはアジアに永続的な安全保障上の利益を有している」と、対日戦争、朝鮮戦争、ベトナム戦争に触れたこの言葉の中にこそ、

## 米の対日赤字593億ドル



その矛先となった、対日戦略、そしてそれと一体となった対アジア経済政策がはつきりとあらわれています。

米商務省がこの二月一七日に発表した、昨年一年間の貿易統計によると、対日貿易赤字は過去最高の五九三億一八二〇万ドルに達しているとしています。

又、アメリカの国家財政赤字は、すでに九二年度末で四兆ドルを突破するなど、国家的大破産というところに行き着いているのです。

問題の根幹は、単に対日貿易赤字が進行しているのみでなく、それにより米市場が食い荒らされ、米基幹産業が国際競争力の低下・喪失を招いていること、そのことによって、世界市場とりわけアジア市場において、米経済が没落しているということなのです。こうしたことを背景として、今日の日米関係の決定的亀裂があり、米帝が国家戦略の中軸を、対ソ主から、対

日主へと、その戦略を据えた転換があるのです。

ゆえに現在発生している事態は、膨大なアジア市場を巡っての、日米による経済圏確保・争奪戦にあると言えます。

## 逆転されたアジア市場の権益

今日の世界的同時不況は、一方で経済圏のプロック化(NAFTA・北米自由貿易協定、EC市場統合等)を生み出し、そのプロックの中の囲い込みを強めつつ、市場の奪取を命題としています。

第二次大戦において、アジア市場の権益支配を確立した米帝は、深刻な経済危機により、アジア市場での経済的支配力と権益を日帝に奪われたのです。

例えば、対アセアンだけをとっても、九〇年の直接投資残高は、米一三億ドル、日本二五六億ドルと二倍以上、対アジア輸出においても、九二年では、米七五億ドル、日本一二五〇億ドルと日米で逆転、大差がついています。

つまり、アメリカのアジアにおける経済的権益が全滅の危機に瀕しているということなのです。

今日の対日経済対策は、明確な市場開放—数値目標導入と、円高導入を柱とし、表裏一体のものとして、逆転されたアジア市場の再支配、資源の奪取へと注がれています。